

## 第79回国民スポーツ大会（滋賀大会）バドミントン競技観戦記 2025.10.05

第79回国民スポーツ大会が滋賀ダイハツアリーナにおいて、9月28日(日)～10月1日(水)の日程で開催された。

今回、本大会に出場したのは、少年女子、成年男子、成年女子の3種別で、以下の監督・選手が参加した。

少年女子 監督 重信 萌夏 (柳井商工 教員)

選手 松本 紗季、白川 菜結、鎌田 虹花 (いずれも柳井商工)

成年男子 監督 松尾 光平 (MUセメントサービス(株))

選手 壇 隆介、望月 健太 (いずれもUBE(株))、永田 拓己 (立命館大学)

成年女子 監督 小宮山元 (株ACT SAIKYO)

選手 大澤 陽奈、水津 愛美 (いずれも株ACT SAIKYO)、金廣 美希 (株再春館)

今大会の戦績について、以下に記す。

成年男子は32枠のエントリーで、1回戦の対山梨県戦に2対1で勝利した。特に、勝負のかかった第2シングルスでは望月選手がファイナルゲーム0-7のカウントから、あきらめることなく持ち前の粘りを見せ、21-13で逆転勝利を収めた。2回戦は対佐賀県だったが0対2で敗れ、ベスト16どまりとなった。しかし、成年男子は久しぶりの初戦突破であった。



成年男子 1回戦 M-11	山梨県	1-2	山口県
5コート		D1	13:04   48分
	興石 涼 古屋 樹	24-26 22-20 5-21	望月 健太 永田 拓己
		=	
5コート		S1	14:01   52分
	興石 涼	14-21 21-17 21-14	壇 隆介
		=	
5コート		S2	14:58   43分
	古屋 樹	21-15 15-21 13-21	望月 健太

成年男子 2回戦 M-22	山口県	0-2	佐賀県
3コート		D1	13:32   44分
	望月 健太 永田 拓己	21-17 18-21 16-21	小野 麟太郎 阿部 允耶
		=	
3コート		S1	14:21   26分
	壇 隆介	12-21 12-21	川原 怜也

成年女子は16枠のエントリーで、初戦の対東京都戦に1対2で惜敗し、ベスト8入賞を逃した。ダブルスの大澤・金廣ペアがファイナルゲームで逆転負けを期し、続く第1シングルの水津選手が柳井商工出身の砂川選手に勝利するも、第2シングルの金廣選手がファイナルゲームを落とし、1対2での敗戦となった。再春館所属の金廣選手はふるさと選手として出場した。日頃はダブルス専門の選手であるが、勝負のかかった第2シングルとして、最後まで粘りを見せてくれ感謝したい。

成年女子 1回戦 W-04	東京都	2-1	山口県
7コート		D1	10:46   72分
	木村 百伽 須藤 海妃	21-17 14-21 22-20	金廣 美希 大澤 陽奈
		=	
7コート		S1	12:04   86分
	砂川 温香	15-21 21-18 13-21	水津 愛美
		=	
7コート		S2	13:35   69分
	木村 百伽	21-14 14-21 21-17	金廣 美希

昨年度まで2連覇の少年女子は全県出場枠の第1シードで、2回戦対京都府、3回戦対茨城県、準々決勝の対福島県に2対0で順当に勝利した。準決勝の対大阪府はダブルスが敗れるも、第1、第2シングルスで勝利し2対1で決勝進出を果たした。そして、対青森県の決勝戦であったが0対2で敗れ、3連覇はならなかった。しかし、準優勝という立派な成績で、これまで柳井商工キャプテンとしてチームを牽引してきた白川選手の頑張りに拍手を送りたい。また、2年生の鎌田選手、松本選手は今後ますますの活躍が期待される。



少年女子 準決勝 G-44	山口県	2-1	大阪府
7コート		D1	14:46   46分
	松本 紗季 鎌田 虹花	16-21 16-21	米本 宙那 小林 茉央
		=	
7コート		S1	15:38   45分
	白川 菜結	21-14 21-17	神尾 朱理
		=	
6コート		S2	16:06   65分
	松本 紗季	21-23 21-14 21-13	小林 茉央

少年女子 決勝 G-47	山口県	0-2	青森県
8コート		D1	11:08   45分
	松本 紗季 鎌田 虹花	16-21 15-21	東谷 悠妃 徳永 結妃
		=	
8コート		S1	11:59   47分
	白川 菜結	12-21 15-21	浅野 真央

今大会を振り返って、今後への課題は次のように考える。

まず、少年男子、成年男子の強化が喫緊の課題である。各チームと県協会、そして県スポーツ協会とが連携した重点的な強化が必要である。

成年女子については、母体となる ACT SAIKYO の選手が国際大会との兼ね合いもある中で、いかにダブルス強化をしていくかが課題であろう。

少年女子は、今年の全国中学校大会で団体、個人と完全優勝を成し遂げた選手たちが今後高校生にもなり、ますますの戦力アップが確実である。しかし、全国選抜、インターハイ 10 連覇を成し遂げ、勝たなければならないとの重責の中で、いかに本来のパフォーマンスを発揮できるかが課題となるであろう。

最後に、今大会では連日、県スポーツ協会の方々が多くお越しになり、大声援を送っていただいた。心より感謝したい。

文責 県協会理事長 野村義徳